

令和6年度 かほく市立大海小学校 学校評価中間報告書

経営目標	取組内容	主担当	評価の観点	達成度判断基準	児童の評価	保護者の評価	地域の方の評価	教員の評価	達成度(判)	後期の方向性(改善計画等)	学校運営協議会委員による意見
1	ア「主体的に学びを深める工夫」を研究の重点とし、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を推進する授業づくりに努める。	学習指導部	授業において「主体的に学びを深める工夫」を意識して指導している。	教職員アンケート				100%	A	校内研究会や相互参観、週案の取組を通して、職員全員で共通実践を進めてきた。学期ごとに取組の振り返りを行い、評価改善を行っていく。	学校の授業の様子が、昔とずいぶん変わってきていることがわかった。タブレット端末も授業にどんどん取り入れられていることにも驚いている。新しい学習方法を取り入れつつも、ノートにきちんと書いたり、先生のお話を聞いたりといった事も大切にしたい。夏休みの宿題が多いのでは。子ども達はしっかりとできているのか心配している。親の負担もできるだけ減らしていけるように精選していきたい。
			自分の考えを友達に伝えることができる。	児童アンケート	92%				A	一人一人が発言する場の確保と、児童に自分の考えを最後まではっきり話すことを意識させていく。	
	イタイムマネジメントを意識し、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保する。	GIGA担当	授業において、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保している。	教職員アンケート				89%	A	振り返りや適用問題の時間の確保ができないことがあった。児童に学びの自覚をもたせるために、導入は短く、何を学び合わせたいのか教師が明確にして、タイムマネジメントをする必要がある。	
	ウより主体的な学習となるために1人1台端末を効果的に活用したICT教育の実践推進		1人1台端末を活用した授業を計画的に行っている。	1人1台端末を活用した授業を週に1~2回以上行っているか				89%	B	GIGA推進リーダーを中心とした校内研修により、授業における1人1台端末の活用が促進された。さらに、端末の活用を促すために、教科のねらいや子供の実態に応じて効果的に使用できるようにしていく。	
	エ家庭学習の習慣づけを図る。(10分×学年)	学習指導部	学年に応じた家庭学習の仕方が定着し、進んで取り組んでいる。	児童・保護者アンケート「自分の決めた学習時間を守って学習している」	86%	81%			A	家庭学習ががんばりカードを活用し学習習慣が身に付くよう指導する。家庭学習の意義についても適宜児童や保護者に伝え、家庭学習の意識を高めていきたい。また、2学期始まりに、「自分のめあて」「目標時間」「実施時間」「場所」「時間が残ったらすること」等、児童と共通理解を図る。	
オ読書に親しむ習慣化を図る。		朝読書や学年に応じた必読書を設定することで、本を読む習慣をつけ、質の高い本を読んでいる。	年間 次の数値以上 低学年は150冊 中学年は100冊 高学年は80冊	51%				年度途中のため、判断できない。	前期の目標冊数をほとんどの児童が達成できた。読書の習慣化や読書量の確保の取組として行われている朝読書の取組と教職員の声かけの成果といえる。読書の質を高める取組として行われている各教室に置かれている「この本読もう」は、教科書で紹介されている本が中心なので、全部読もう、声かけしていく。		
2	アいじめや問題行動の早期発見・早期対応・事後の確認、継続指導(観察)を徹底する。	生徒指導部	問題行動が起きる前に、児童と積極的に関わり、生徒指導主事を中心としたチーム対応で家庭と連携を図り、問題解決ができるようにしている。	教職員:「問題行動の未然防止に努め、問題行動が起きた際は、家庭と連携を図りながら、問題解決ができるようにしている」 児童:「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」「いじめをしていない」 保護者:「学校のいじめの未然防止や早期発見の取組が伝わってくる」	98%	77%		100%	B	いじめが疑われる場合は、管理職、生徒指導担当などへの「報告・連絡・相談」を確実に行うと共に、事実確認や情報収集を適切に行い、組織的な対応を意識していく。 いじめの認知件数から考えると、いじめが日常的に行われており、それが数値に大きな影響を及ぼしているとは考えにくい。学習面、生徒指導面、特別活動面など、いろいろな角度から原因を洗い出し、児童が「楽しい」と感じられる機会を増やしていくことが大切だと考える。 学校の取組を保護者へ発信するという課題がなかなか改善できていない。意識的に機会を設けて、発信できるようにしたい。	いじめアンケートはどれくらいの頻度で行い、結果をどのように取り扱っているか気になった。月に1回、しっかりとアンケートを取り、早期発見・早期解決に努めているとわかり安心した。学校のいじめに対する取り組みを保護者にどのように伝えていくかが課題だ。おおみルームの利用状況について、理解できた。今後は利用する児童も増えていくことが予想されるので、先生方の負担にならないように工夫して運営できたらよい。
			イあいさつを通して他者とのよりよい関わりを持たせる。	学校内で出会った人にあいさつができる。	児童・教職員アンケート	100%			100%	A	
	ウ配慮を要する児童への指導、支援の在り方(SSRの運用等)の共通理解を図る。	配慮を要する児童に対して、組織的に取り組んでいる。	教職員アンケート				100%	A	・配慮を要する児童への指導や支援の仕方について教職員間で情報交換を行い、日々の指導に生かしていく。また、特別支援教育や生徒指導に関する校内研修会を計画的に実施するなどして、指導の仕方や支援の在り方(SSRの運用も含む)について共通理解を図っていく。		
	エ豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実を図る。	道徳の授業を通して、道徳的な判断力、実践力が高まっている。	児童:「道徳の授業で、内容項目について考えている」 教職員:「道徳では、年間指導計画に基づき、計画的に授業を行っている」	97%			100%	B A	・どの学年も計画的に授業を進めている。 ・2学期は、児童一人一人が納得できる考え方を見つけられるように、再思考する場を授業の中に設けることを共通理解したい。		
3	ア家庭と連携し、生活習慣の定着と運動能力の向上	保健安全部	養護教諭と連携して、食育や視力低下防止の授業及び活動を推進している。	児童・保護者アンケート「朝食を食べている」	98%	100%			A	・朝食について保健指導を実施する。 ・やせ、肥満傾向の児童に関して、保護者や本人と話し、体格の変化に気をつけながら様子を見る。 ・はっぴ〜貯金で就寝時刻やその他生活習慣の様子を確認し、気になる児童に声かけを行う。 ・よりよい生活習慣の継続・定着のため、保護者との連携を大切にしている。	就寝時間が遅くなるのは、習い事等、放課後の過ごし方が多様化していることにも関係がある。保護者と連携を取りながら、よりよい生活習慣の定着を図っていけるとよい。
			イ「体力づくり1校1プラン」による体力と運動能力の向上を図る。	各学年で、スポチャレに取り組んだり、苦手種目を意識した活動を取り入れている。	教職員アンケートの実施	88%			83%	B	
4	ア業務の軽重、会議や行事の取組を工夫し、組織的運営を推進する。「四協」で取り組む	教務部	県全体で行っている勤務時間調査における勤務時間が昨年度を下回る。	勤務時間調査					C	・今年度日課の見直しを行い、児童の下校時間が30分程度早くなった。このことにより、放課後の会議の開始時刻を早めることができ、勤務時間内の教材研究の時間も確保できるようになった。	教員の働き方改革について、達成度を割合ではなく時間で判定できるようにする。教員はやることを減らす工夫が必要だ。
5	ア地域素材を生かした学習に積極的に取り組む。	学校コーディネーター	総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材を生かした授業を行っている	教職員アンケート				100%	A	・教育課程と照らし合わせながら、大海の特色を生かしつつ、効果的な活用となるよう、計画的に学校コーディネーターと調整を進めていく。	大海小の強みは「豊富な地域人材とそれを活用する力」である。学校コーディネーターの力によるものが大きい。今後も強みを生かして、学校の教育活動を展開していきたく。
			総合的な学習や生活科等で地域の学習に楽しく取り組んでいる。	児童アンケート	98%				A		
	イ「学校運営協議会」の効果的な運用、学校関係者評価を生かした学校経営を実施する。		家庭や地域との連携に際し、積極的に学校コーディネーターや学校運営協議会を活用している。	教職員アンケート 委員アンケート				100%	A	・学校運営協議会で出た意見や評価を基に、よりよい学校になるように、取組を考え実行していく。	